

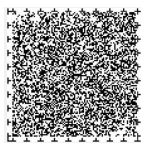


資料 3

TOKYOスポーツレガシービジョン

2022年1月21日

東京都



東京2020大会

オリンピック

2021年7月23日～8月8日（17日間）

選手数11,417名(205NOC*+難民選手団)

42会場

33競技・339種目

世界新・ベスト：7競技26種目***

* NOC：国内オリンピック委員会

** NPC：国内パラリンピック委員会

***ボートの世界ベスト6種目を含む

パラリンピック

2021年8月24日～9月5日（13日間）

選手数4,403名(162NPC**+難民選手団)

21会場

22競技・539種目

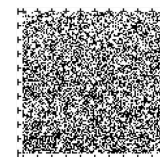
世界新：6競技158種目

大会の成果を東京のスポーツレガシーへ

- 東京2020大会は、大会史上初の延期という困難を乗り越え、都民・国民をはじめ関係者の皆様の協力を得て、2021年夏に開催が実現されました。
- 安全・安心の対策に万全を期し、205の国内オリンピック委員会と162の国内パラリンピック委員会、全ての国際競技連盟の参加を得て、全ての競技を行うことができました。
- コロナ禍という特殊な環境下でも、アスリートが練習を積み最高のパフォーマンスを発揮する姿は、都民・国民に勇気と感動をもたらしました。スポーツの力を改めて実感させられた瞬間でした。
- 大会を通じて、スポーツ施設の整備やバリアフリーの進展などハード面が充実するとともに、スポーツ実施気運やパラスポーツへの関心の高まり・大会を支えたボランティアの活躍といったソフト面のレガシーも多く芽生えています。
- これらのレガシーは、アスリートが常に最善を尽くすように、弛まぬ努力によって未来に受け継いでいかなければなりません。
- 大会の成果が実感される今、それを今後どうスポーツの振興に活かし、都市の中で根付かせていくか、その姿を示すため「T O K Y Oスポーツレガシービジョン」をとりまとめました。
- 都は、機を逃さず、大会で得た成果をスポーツフィールド東京の実現につなげていきます。

目 次

- 1 | 都立スポーツ施設の戦略的活用
- 2 | 国際スポーツ大会の誘致・開催
- 3 | スポーツの場を東京の至る所に拡大
- 4 | パラスポーツの振興
- 5 | 東京のアスリートの活躍
- 6 | ボランティア文化の定着
- 7 | 未来へのメッセージ





東京アクアティクスセンター



有明アリーナ



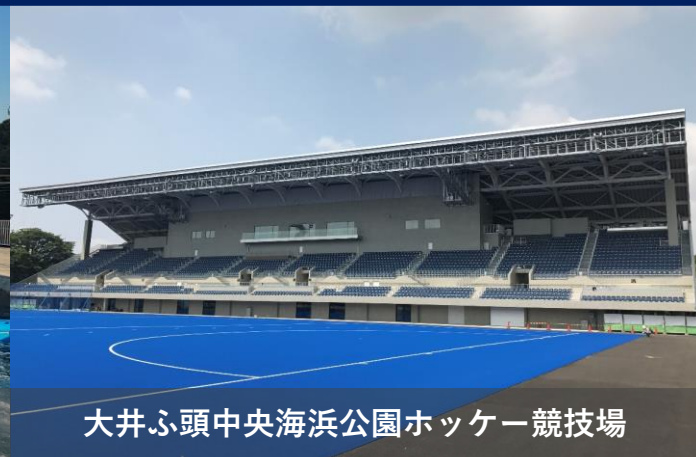
海の森水上競技場

1 都立スポーツ施設の 戦略的活用

アスリートや競技団体から
高い評価を得た大会施設。
トップレベルの試合に触れ、
都民に親しまれる
スポーツの拠点が誕生。



3 カヌー・スラロームセンター



大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場



夢の島公園アーチェリー場



これまでの振り返って

- **大会を契機に、東京のスポーツインフラはバージョンアップ**
 - ・ 新規恒久施設の整備や既存施設の改修に加え、身近なスポーツの場の整備を支援
 - ・ アーバンスポーツやパラスポーツ等、大会のレガシーを活かした施設の整備検討に着手



今後の取組

- **18施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮**
 - ・ 発信力の強化
 - ・ ニーズ対応力の強化
 - ・ 一体的取組によるスポーツ振興
- **各施設を最大限活用するための3つの取組**
 - ・ スポーツでの更なる活用
 - ・ 多様な活用による新たな体験の提供
 - ・ 施設・地域との連携
- **各施設の特性を活かし、多様な活用を推進**
 - ・ 最新の国際水準の設備を有する新規恒久施設、長年都民に親しまれてきた既存施設、それぞれの特性を活かし、多様な活用を推進



東京体育館



味の素スタジアム



駒沢オリンピック公園
総合運動場

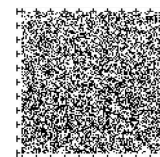


武蔵野の森
総合スポーツプラザ



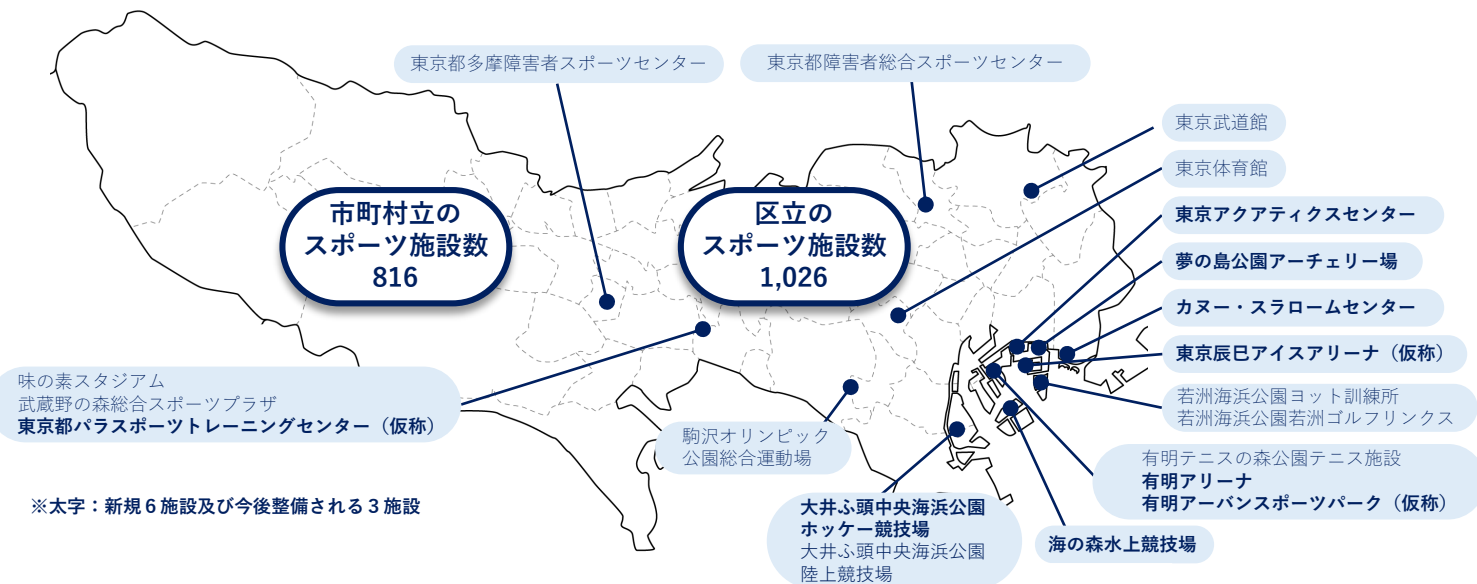
都民の皆様に届ける価値を最大化

- 大会のレガシーとして、都民にかけがえのない価値を提供
- 一人一人が健康で豊かに暮らせる東京を実現



大会を契機とした東京のスポーツインフラのバージョンアップ

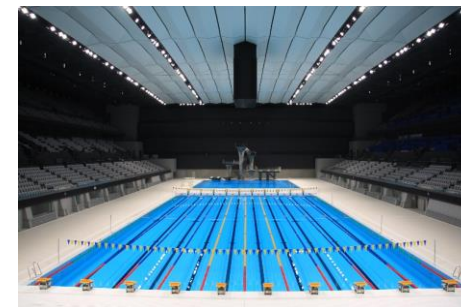
6つの新しい施設の整備、既存施設の改修による機能強化などに加え、身近なスポーツの場の整備を支援



新規恒久施設

▶最新の国際水準の設備

- 新規6施設を整備



東京アクアティクスセンター

身近なスポーツの場

● 区市町村の地域スポーツ施設の整備支援

(2014～2019年度累計実績)

交付先：48区市町村

件数：248件

実績：約71億円



文京スポーツセンター多目的室新設

● TOKYOスポーツ施設サポーターズ事業

(2018～2020年度累計実績)

協力先：14団体(17施設) 件数：1,581件

● 都立学校活用促進モデル事業

(2016～2020年度累計実績)

貸出：25校・5,488日 教室：299回・7,608人

都立公園内の運動施設

大井ふ頭中央海浜公園
陸上競技場、若洲海浜公園
若洲ゴルフリンクスなど
42施設



若洲海浜公園
若洲ゴルフリンクス

既存施設

▶より利用しやすい施設に

- バリアフリー化を推進



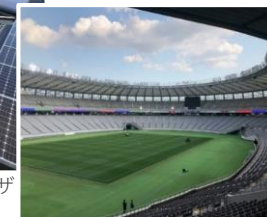
東京体育館

- 設備機能の強化

LED照明、
リボンビジョン、
高密度Wi-Fi



武蔵野の森総合スポーツプラザ



味の素スタジアム

- 再生可能エネルギーの導入

1 都立スポーツ施設の戦略的活用

今後も更なるバリアフリー化や再生可能エネルギー設備の導入等により、防災面も含め、施設をバージョンアップ加えてアーバンスポーツやパラスポーツへの関心の高まりなど大会のレガシーを活かし、引き継いでいく施設も誕生

有明アーバンスポーツパーク(仮称)

- 大会時の仮設競技施設を活用した大会レガシーゾーンをはじめ、若者に人気のある都市型スポーツの場を整備
- スポーツを楽しむとともに、地域の賑わい創出に貢献する施設を併設
- 民間事業者の創意工夫を活かす運営手法について検討

大会レガシーの活用

- スケートボード
- スポーツクライミング (ボルダリング)
- 3x3 バスケットボール

スケートボード

スケートボード
初心者エリア

※ 大会レガシーゾーンのイメージ

屋内ボルダリング棟

拡大図

3x3 バスケットボール

東京都パラスポーツトレーニングセンター(仮称)

- 味の素スタジアム内の室内施設をパラスポーツの施設として整備
- 練習利用や指導者養成など、パラスポーツの競技力向上拠点
- 障害の有無に関わらずパラスポーツに親しむことのできる施設



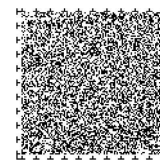
2022年度末
開業予定

東京辰巳アイスアリーナ(仮称)

- 氷上スポーツの国際大会、国内大会、都大会等の主要大会の場として活用
- 初心者・親子連れなど、誰もが氷上スポーツに親しめる場



2025年度
開業予定



18施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮

大規模な競技大会から
都民のスポーツ実践まで幅広い活用



夢の島公園
アーチェリー場



東京アクアティクス
センター



東京体育館



駒沢オリンピック
公園総合運動場



東京武道館

18施設のネットワークで
ポテンシャルを最大限発揮

スポーツ、エンターテインメントなど
多様な活動の場



有明アリーナ



武蔵野の森総合
スポーツプラザ



有明テニスの森公園
テニス施設



味の素スタジアム



海の森水上競技場



大井ふ頭中央海浜公園
ホッケー競技場



カヌー・スラローム
センター



東京都障害者総合
スポーツセンター



東京都多摩障害者
スポーツセンター



若洲海浜公園
ヨット訓練所



有明アーバン
スポーツパーク(仮称)



東京辰巳
アイスアリーナ(仮称)



東京都パラスポーツ
トレーニングセンター(仮称)

多様なスポーツ体験を提供
(水上・氷上・アーバンスポーツなど)

障害者のスポーツの拠点

発信力の強化

- 18施設の魅力やスペックを一体的に内外にプロモーション
- 幅広いスポーツ体験機会の総合的な発信

ニーズ対応力の強化

- 様々な規模の大会の開催
- 多様な利用メニューの提供
- 施設コンシェルジュ機能の強化

一体的取組によるスポーツ振興

- 共通コンセプトによるスポーツイベントの開催
- 複数の施設が連携した大規模大会の開催

各施設を最大限活用するための3つの取組

大会のレガシーを活かし、**スポーツ振興の拠点**として更なる活用を図りつつ、エンターテインメントやユニークベニュー、最先端技術の活用などで**新たな体験**を提供するとともに、**施設や地域との連携**を進め、施設が持つポテンシャルを最大限発揮



スポーツでの 更なる活用

スポーツを「する・みる・支える」場として競技大会での利用、都民利用、アスリートの練習会場としての利用を進め、障害の有無に関わらず、スポーツを通じた都民の健康づくりと競技力向上を推進



競技大会



都民利用



練習利用



多様な活用による 新たな体験の提供

各施設の設備・立地や民間のノウハウを活用し、スポーツの新たな魅力を引き出していくとともに、エンターテインメントやユニークベニューなど幅広い活用を進め、都民に新たな体験を提供



エンターテインメント



ユニークベニュー



最先端技術



教育



施設・地域との 連携

他のスポーツ施設とのネットワークや、周辺施設、地域との連携を深め、多様なニーズに対応するとともに、地域からのスポーツ振興に加え、地域の魅力向上や活性化に寄与



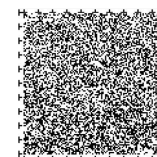
施設間連携



地域との連携



スポーツツーリズム



各施設の特性を活かし、多様な活用を推進

大会を契機に整備された最新の国際水準の設備を有する新規恒久施設、伝統ある競技大会の開催などにより長年都民に親しまれてきた既存のスポーツ施設、それぞれの特性を活かし、多様な活用を推進していく

夢の島公園アーチェリー場

広大な芝生広場を活かし、アーチェリーでの利用を推進するとともに、多目的な活用を図るなど、夢の島公園と一体となって都民の憩いの場を提供していく

大会等を通じたアーチェリーの競技力の向上
(国内大会の誘致、アーチェリー体験教室の開催など)

多様なスポーツでの利用拡大
(ブーメラン、フライングディスクなど)

都民の憩いの場としての利用
(地域住民の交流の場としての開放)

芝生広場での各種イベント誘致
(グルメイベント、ランニングイベントなど)



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant



海の森水上競技場

アジア最高峰の国際競技場として、水上スポーツの拠点とするとともに、広大な陸上エリアや東京湾のダイナミックな景観を活かしたユニークベニューとして活用していく

競技大会や合宿を通じたアスリートの強化・育成
(国内外の大会誘致、強化合宿の受入など)

国内競技の強化拠点化
(アスリート育成の拠点化に向けた検討)

水上スポーツ等の機会の提供
(水上レジャー、アウトドア体験など)

ユニークベニュー利用の促進
(ロケ地利用、企業研修、レセプションなど)

地域と連携したスポーツの場の提供
(総合型地域スポーツクラブの検討など)

隣接する公園との連携による利用促進
(音楽イベント、キャンプなど)



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



取組①
スポーツでの更なる活用

取組②
多様な活用による新たな体験の提供

取組③
施設・地域との連携

大井ふ頭中央海浜公園 ホッケー競技場

国際水準のホッケー場として、競技力強化や普及・振興の場とするとともに、多目的球技場として、様々なスポーツやレクリエーションの総合的な拠点にしてい

競技大会や合宿等によるホッケーの競技力向上
(各種大会や強化合宿の誘致、ホッケー教室の開催など)

多様なスポーツを楽しむ場
(ラクロス、サッカー、アメフトなど)

スポーツ、レクリエーション利用の拡大
(フットサル、タッチラグビーなど)

周辺施設や地域住民との連携
(スポーツツーリズム、ボランティア活用など)



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant



取組① スポーツでの更なる活用

カヌー・スラロームセンター

国内唯一の人工スラロームコースを活用し、アスリートの強化育成や都民への様々な水上スポーツ・水上レジャーの機会提供とともに、隣接する公園と連携し賑わいを創出する

競技大会や練習利用によるアスリートの強化・育成
(国内外の大会誘致、選考会の実施など)

国内競技の強化拠点化
(アスリート育成の拠点化に向けた検討)

水上スポーツ・レジャー体験機会の提供
(ラフティングツアー、水上遊具など)

ユニークベニュー利用の促進
(ロケ地利用、企業研修など)

施設全体を活用したイベント誘致
(カヌー関連のイベント誘致など)

隣接する公園との連携による利用促進
(共通チケットの検討など)



取組② 多様な活用による新たな体験の提供

有明アリーナ

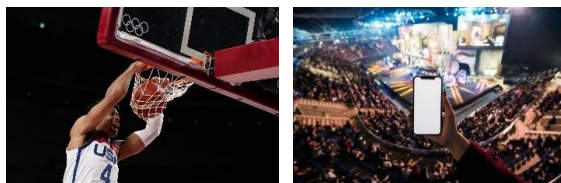
コンセッションにより民間ノウハウを最大限活かし、東京の新たなスポーツ・文化の拠点として、国際大会やプロリーグの開催、コンサート等のイベント開催など、多種多様なコンテンツを提供していく

大規模スポーツ大会の開催
(国内外の大規模大会誘致など)

スポーツイベントの創出に繋がる多様な事業展開
(プロスポーツチームとの連携による事業展開など)

最先端技術を用いたスポーツ体験
(XR(VR/AR等)を活用したスポーツ観戦など)

エンターテインメントの場の提供
(コンサート、各種イベント・ショーなど)



©Tokyo 2020 / Ken Ishii

取組③ 施設・地域との連携

東京アクアティクスセンター

日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場として、幅広い世代に利用いただくとともに、施設のスペックをフルに活かし、多様な活用を推進していく

国内外の大会開催等による競技力の向上
(国内外の大会誘致、選考会の実施など)

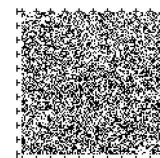
水泳の更なる裾野拡大
(オリンピック・パラリンピックによる水泳教室など)

最先端技術によりアスリート育成をサポート
(5G環境を活用したハイレベル練習など)

プールを活用した各種イベント誘致
(水泳関連のイベント誘致など)

都民が健康増進に取り組める場の提供
(子供体操教室、ヨガイベントなど)

周辺施設との連携によるコンテンツ提供
(屋外空間を活用したミニコンサートなど)



©Tokyo 2020 / Ken Ishii

取組① スポーツでの更なる活用

東京体育館

大規模スポーツ大会の開催
(国内外の大規模大会誘致など)

大会レガシーの活用
(「卓球レガシー」の活用、
周辺スポーツ施設との連携など)



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

若洲海浜公園 ヨット訓練所

海上スポーツの普及・促進
(パラセーリング体験、
子供ヨット教室など)

若洲海浜公園若洲ゴルフリンクス等
の周辺施設と連携した事業の展開
(ファミリー向け体験イベントなど)



取組② 多様な活用による新たな体験の提供

駒沢オリンピック公園 総合運動場

公園と連携した
スポーツ事業の展開
(ナイトヨガ、ジョギング大会など)

産官学連携事業の実施
(近隣大学のアスリートによる
スポーツ教室など)



武蔵野の森 総合スポーツプラザ

多摩のスポーツ拠点としての
更なる活用
(大規模大会誘致、
大会レガシーの活用など)

エンタメなど多様な利用の促進
(コンサート、ダンス競技大会など)



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

取組③ 施設・地域との連携

東京武道館

都内武道錬成の拠点としての
活用促進
(全国大会や関東大会等の誘致など)

日本文化を伝える
スポーツ事業の展開
(茶室なども活用した武道ツーリズムなど)



障害者スポーツセンター (総合・多摩)

身近な地域での
パラスポーツ活動の支援
(自治体等への障がい者スポーツ
指導員の派遣など)

他施設と連携した
パラスポーツ普及
(車いすテニス教室、パラセーリング体験など)



有明テニスの森公園 テニス施設

国内随一のテニス施設としての
活用促進
(国際レベルのテニス大会誘致など)

コロシウム等施設の
多様な活用
(エンターテインメント、
車いすテニス教室など)



味の素スタジアム

スポーツとエンターテインメント
による更なる活用促進
(サッカーと音楽イベントの同時開催など)

地域と連携した施策の展開
(周辺施設と連携したウォーキングイベントなど)



都民の皆様に届ける価値を最大化

各施設を戦略的に活用し、そのポテンシャルを最大限発揮させることで、スポーツ体験や健康づくりをはじめ、多様な価値を提供

スポーツ体験



©Tokyo2020/Meg Oliphant

バージョンアップしたスポーツ施設で
多種多様なスポーツ体験・観戦が可能に



©Tokyo2020/Meg Oliphant

健康づくり



スポーツ体験の拡充により、障害の有無に
関わらず、都民のウェルネスを実現



Version Up!

アスリートのか

快適でハイレベルな練習環境を提供。
選手の活躍により、スポーツ気運を向上



子供たちの夢

様々なスポーツ体験や観戦機会の
提供を通じて感動を届け、夢を育む

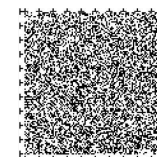
潤いある生活

エンターテインメント等に触れる機会を提供し、
生活における楽しみと潤いを創出



スポーツ施設は、未来への投資

大会のレガシーとして、都民にかけがえのない価値を提供し、
一人一人が健康で豊かに暮らせる東京を実現



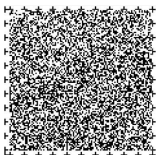
新規恒久施設

● 競技利用 ◆ 一般利用・その他の利用

2021 (令和3) 年度		2022 (令和4) 年度				2023 (令和5) 年度				
10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	
<h2>カヌー・スラロームセンター</h2>										
● 日本選手権/NHK杯 ◆ 施設見学会		レガシーツアー ● 日本選手権/NHK杯 ◆ 再開業イベント ◆ スポーツの日 ◆ 親子カヌー体験 ◆ 障害者カヌーボランティア講習 ◆ 障害者カヌー体験会 ◆ レスキュー講習 ● 競技団体による練習利用		● 日本選手権/NHK杯 ● 競技団体による練習利用		(4月頃) 本格再開業 ※今後予約調整		● カヌー・アジア選手権		換水点検 (1-2月)
ラフティング・カヤック体験等を開催										
<h2>有明アリーナ</h2>										
		開業 (8月頃)		◆ オープニングコンサート① ◆ 大会レガシースポーツイベント ◆ オープニングコンサート② ◆ オープニングコンサート③ ● 国際スポーツイベント ● 国際スポーツ大会 ● 国内スポーツリーグ戦 ◆ 障害者スポーツイベント ● 国内スポーツイベント		● 国際スポーツ大会		● 国際スポーツ大会		● 国際スポーツイベント
レガシーツアー 毎月5～6件程度の国内外音楽イベント										
<h2>東京アクアティクスセンター</h2>										
◆ 施設見学会		施設見学会 (工事と調整の上、実施)				レガシーツアー		再開業 (4月頃)		※今後予約調整
● 日本選手権(競泳) ● 日本選手権(AS) ● ジャパンオープン ◆ 再開業イベント ● 日本選手権(水球) ● 日本選手権(水球) ● 日本学生選手権(競泳) ● KOSUKE KITAJIMA CUP ● 全国JOCジュニアオリンピック ● 個人利用や水泳教室など										
<h2>(参考) 東京辰巳国際水泳場</h2>										
● 日本学生選手権水泳競技大会 ● 日本選手権(25m)		● 日本選手権(AS) ● 全国JOCジュニアオリンピック ● 日本選手権(競泳)		● 国体関東ブロック大会(AS) ● 国体関東ブロック大会(水球) ● 日本ASチャレンジカップ ● 全国JOCジュニアオリンピック ● 日本学生選手権水泳競技大会		● 日本選手権(水球) ● 日本選手権(25m) ● ジャパンオープン		● 全国JOCジュニアオリンピック		

東京アクアティクスセンターの開業に伴い、競技大会等を引き継ぎ

アイスアリーナへの改修工事



注：各施設の2022 (令和4) 年度分の利用予定は一部を除き予約済みのものであり、その他の予定は、現時点で利用意向を受けているものであり、今後予約調整を行います。現時点での主な利用予定であり、今後新たな予約受付等により変更となる場合があります。



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

2 国際スポーツ大会の誘致・開催

アスリートが輝いた競技施設。
最高のパフォーマンスが感動を呼び、
スポーツの素晴らしさを伝えた。

大会に寄せられた世界からの声

NOC全体を代表し、このような安全で成功した大会を開催してもらったことに対して、日本人に永遠に感謝する。

- Acting ANOC President (ANOC・NOC連合会会長代行) Robin Mitchell

出典：Tokyo 2020 - ANOC Messages
<https://myemail.constantcontact.com/Here-s-a-quick-update-from-us-.html?soid=1129672503632&aid=fXvbmDBs7ic>

素晴らしかった。偉大な経験だった。圧倒された。
コミュニティも、全てが本当にエキサイティングだった。

- Nadine Weratschnig (カヌー スラローム) オーストリア

出典：Athletes from around the world offer praise and thanks to Tokyo and Japan
<https://olympics.com/ioc/news/athletes-from-around-the-world-offer-praise-and-thanks-to-tokyo-and-japan>

日本は異次元の世界のようだった。敬服し本当にインスパイアされた。
東京のエネルギーを吸収し、それが今日の結果につながった。

- Vladyslav Zahrebelnyi (陸上男子走り幅跳びT37の金メダリスト)ウクライナ

出典：Tokyo 2020 wrap-up: Best Para athletics quotes
<https://www.paralympic.org/news/tokyo-2020-wrap-best-para-athletics-quotes>



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Ken Ishii

大会では競技施設に高い評価。今後、大会の運営経験も活かし、これら競技施設の魅力を最大限に発揮し、積極的に国際スポーツ大会の誘致・開催に取り組む。ハイレベルな競技の観戦機会が広がる。

これまでを振り返って

- **優れた競技施設が都内に多く集積**
大会を通じアスリートや国際スポーツ界から高い評価
アクセシビリティも確保
→ 既存施設に新規施設が加わり、対象競技や会場の選択肢が拡大
- **アスリートの活躍とスポーツ観戦への関心の高まり**
→ 大会でのアスリートのパフォーマンスが子供たちにも夢と勇気を与えた
- **東京の都市の力が大会運営を支えた**
輸送、ロジスティクス、宿泊、医療、テクノロジー、人材、危機管理等の総合力を発揮
→ 困難な環境でも世界最大のスポーツの祭典を実現



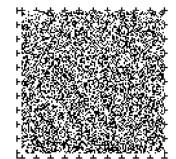
©Tokyo 2020 / Ken Ishii

今後の取組

- **【多種多様な国際スポーツ大会を東京へ】都立スポーツ施設を戦略的に活用**
 - ・ 18施設のネットワークで規模の大小・多様な種目に対応し、国際大会を誘致・開催
 - ・ 施設の仕様や最先端設備の情報、活用事例を集約発信し利用につなげる
- **【国際スポーツを東京へ】誘致・開催を促進**
 - ・ 国内競技団体の誘致活動や開催に向けた取組をサポート
 - ・ 競技別に国際大会の開催年次や規模を把握し支援制度の活用を促進
 - ・ パラスポーツについては、パラリンピック競技に限らず支援対象を拡充
- **【観戦機会の拡大】スポーツの力に触れる場を広げる**
 - ・ 子供たちがトップアスリートの活躍に触れ、スポーツの価値を学ぶ場を提供
 - ・ 間近で国際スポーツ大会を観戦しスポーツへの関心を高める場を都民に提供
- **【東京のプレゼンス向上】国際スポーツ都市・東京の魅力をPR**
 - ・ 競技施設や都市基盤の集積、開催能力、安全・安心、食など都市の魅力をアピール
 - ・ 東京2020大会、ラグビーワールドカップ2019™など大規模国際大会の都内開催実績の発信

今後予定されている国際大会の例

- **WMHマスターズホッケー
ワールドカップ 2022東京**
2022年10月19～29日
大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場
駒沢オリンピック公園総合運動場
- **イオンカップ世界新体操クラブ選手権**
2022年10月20～23日 東京体育館
- **柔道グランドスラム東京大会**
2022年12月2～4日 東京体育館
- **2023年カヌー・アジア選手権**
2023年10月 海の森水上競技場
カヌー・スラロームセンター



様々な国際大会が開催され、スポーツの賑わいを都市の活力へ



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

©Tokyo 2020 / Kenta Harada

3 スポーツの場を 東京の至る所に拡大

コロナ禍でもベストを尽くす
アスリートの姿が共感を呼んだ。
大会を機にスポーツへの関心が
大きく高まった。

オリンピック 33競技・339種目

世界新・ベスト：7 競技26種目*

*ボートの世界ベスト6種目を含む

パラリンピック 22競技・539種目

世界新：6 競技158種目



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

©Tokyo 2020 / Kenta Harada

©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

大会を機に盛り上がったスポーツへの関心。これを、都民の「する・みる・支える」につなげていく。いつでもどこでもスポーツに触れられる場を拡大し、世界最高水準のスポーツ実施率を実現する。

これまでを振り返って

- **スポーツ実施率70%を目標に、スポーツ気運を高めてきた**
参加体験型イベント等を開催し、都民のスポーツ実施を促進
→ 都民のスポーツ実施率：39.2%（2007年）→ 68.9%（2021年）
- **多様な主体との連携を進めてきた**
区市町村や企業・団体等の多様な主体と連携し、ともにスポーツを推進
→ 東京都スポーツ推進企業：102社（2015年）→ 333社（2021年）

都民のスポーツ実施率



今後の取組

- **【スポーツ気運の更なる向上】** これまでの取組を発展させ、スポーツの魅力を増大
 - ・ 大会で注目されたアーバンスポーツの体験をはじめ、スポーツイベントの魅力を増大
 - ・ 誰でも気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの体験機会を増大
 - ・ スポーツイベントの情報を集約・発信、スポーツ月間等のキャンペーンを展開
- **【企業や地域との連携の促進】** パートナーと協力し、オール東京でスポーツを推進
 - ・ 交流会の実施や専用サイトでの企業の取組発信・共有により、企業の参画を更に促進
 - ・ 区市町村の取組をソフト・ハードの両面から支援し、地域のスポーツ環境を増大
- **【スポーツの裾野の拡大】** 様々なニーズに応じて、スポーツとの新たな接点を創出
 - ・ オフィス街等でのプロモーションにより、忙しいビジネスパーソンの運動機会を提供
 - ・ DX*も活用したスポーツイベントの開催など、新しいスポーツの楽しみ方を発信
 - ・ 大会のレガシーとして、地域と一体となった、誰もが楽しめる自転車のライドイベントなどの実施や大会等の開催

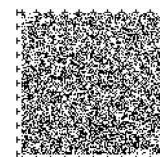
*デジタルトランスフォーメーション



参加体験型イベント



VRを活用したイベント



「する・みる・支える」の充実で、日常にスポーツが溶け込んだまちへ



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Kenta Harada

4 パラスポーツの振興

パラリンピアンが示すスポーツの無限の可能性に
日本も世界も沸いた。

大会を通じ共生社会への関心が大きく高まった。

フィールドでのエキサイティングな競技結果に加えて、東京2020大会はパラリンピック・ムーブメント発展にとって大きな成功となった。スポーツを最高のレベルで提示し、卓越と人間性について本当に多くのストーリーを共有し、スポーツが世界全体に如何にポジティブなインパクトを与えることができるかを示した。

- カナダパラリンピック委員会会長 Marc-André Fabien

出典：CANADA CONCLUDES TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES WITH 21 MEDALS
<https://paralympic.ca/news/canada-concludes-tokyo-2020-paralympic-games-21-medals>



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Kenta Harada

大会で脚光を浴びたパラスポーツ。その盛り上がりをもっと高め、パラスポーツを普及させていく。
障害の有無を問わずパラスポーツを楽しみ、観戦し、交流するための取組を推進し、共生社会の実現に貢献していく。

これまでを振り返って

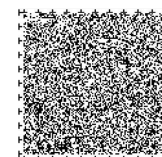
選手の発掘・競技力向上とともに、パラスポーツへの関心拡大やファン獲得を進めてきた

- **パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」**
情報発信やイベントによりパラスポーツのファンを拡大。企業・団体の取組を後押し
→ メンバー：個人や企業など140万人以上（2021年11月末現在）
- **パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」**
競技体験などを通して、パラリンピックの魅力を体感できる機会を提供
→ 2019年度末までに都内全区市町村で実施。約22.5万人が参加



今後の取組

- **【幅広いパラスポーツの普及と人材の育成】ファンの拡大と交流**
 - ・ ボッチャ等を通じ、障害のある人もない人も参加し、交流できるイベントを充実
 - ・ 競技の観戦機会とユニバーサルなスポーツとして楽しむ体験機会、それぞれの充実
 - ・ 大会で活躍したボランティアに、継続して情報を提供し、支える人材の裾野を拡大
- **【きっかけを提供】パラスポーツに取り組む障害のある人を応援**
 - ・ パラリンピックを機に興味を持った人に、身近な地域での体験機会を提供
 - ・ 「競技」だけでなく「健康・楽しみ」の面からも広く参加を促進
- **【場の確保】「だれでも、どこでも、いつまでも」を実現**
 - ・ 施設のバリアフリー情報等も発信。特別支援学校体育施設も更に活用
 - ・ デジタル技術を活用し、重度障害者等の参加を支援
 - ・ 地域でのスポーツ・福祉・医療・教育の協働を後押しし、様々な楽しみ方を提供
 - ・ 東京都パラスポーツトレーニングセンター（仮称）を開設（2022年度末予定）
 - ・ スポーツ施設におけるパラスポーツの利用を促進



大会を契機に進んだ共生社会への

パラスポーツ応援プロジェクト TEAM BEYOND

パラスポーツで、未来を変えよう



パラスポーツを応援する人を増やすため、東京都が展開しているプロジェクト。アスリート、スポーツをする人・観る人・支える人、企業・団体等、140万人以上が参加



NO LIMITS CHALLENGE NO LIMITS SPECIAL



パラリンピック競技体験プログラム。都内全区市町村と連携し、2019年度末までに約22.5万人が参加。ウェブ版も開設。

NO LIMITS
SPECIAL 2020



大会22競技を体験体感！SPECIALも実施。

パラスポーツ次世代選手 発掘プログラム

運動能力の測定や競技体験会を開催。国際大会で活躍するパラアスリートを継続的に輩出。大会後の競技体験会では前年の約2倍の応募



東京2020パラリンピックの成功と バリアフリー推進に向けた懇談会

2019年5月29日設置
パラアスリート、学識経験者、各界で活躍されている方々をメンバーとして設置。メンバーは「パラ応援大使」として、パラスポーツの魅力やバリアフリーの推進について広く発信



※2021年12月16日
「パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会」
として再スタート

大会を契機としたバリアフリー化の取組

競技会場

車いす使用者が様々な場所から観戦できるように、
車いす使用者席を水平方向や垂直方向に分散して配置

トイレを、車いす対応、乳幼児対応などの
利用形態に応じて分散して配置



有明アリーナ



東京アクアティクスセンター



有明アリーナ

道路

段差解消、視覚障害者誘導用
ブロックの設置等



有明コロシウム周辺

鉄道駅

ホームドアの設置等



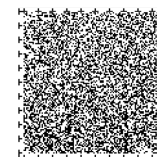
J R 中央・総武線各駅停車
千駄ヶ谷駅

宿泊施設

客室のバリアフリー化を促進



バリアフリー化された客室例
(京王プラザホテル)





5 東京のアスリートの活躍



日本選手団

オリンピック

583名出場 (過去最多)
男子306名、女子277名

58個のメダル獲得 (過去最多)
金27個、銀14個、銅17個

パラリンピック

254名出場 (過去最多)
男子148名、女子107名
1人が2競技に出場

51個のメダル獲得
金13個、銀15個、銅23個

東京都の発掘・育成・強化選手

オリンピック

60名出場
男子29名、女子31名

9名がメダル獲得※
金4個、銀5個、銅1個

パラリンピック

62名出場
男子35名、女子27名

16名がメダル獲得※
金1個、銀4個、銅14個

※複数メダルを獲得した選手を含むため、人数とメダル数は一致しない

東京パラスポーツスタッフ認定者
34名(メダリスト2名)参加

大会では都が発掘・育成・強化してきた選手も多数出場し、メダリストも誕生。
東京のアスリートが、その経験をもとに地域で活躍し、スポーツの裾野を拡大する循環を創り出していく。

これまでを振り返って

- **競技力の向上**
大会に向けて実施してきた施策により、東京のアスリートの競技力が向上
- **躍動するアスリート**
東京のアスリートが子供たちに夢や希望を与え、競技スポーツの裾野が拡大

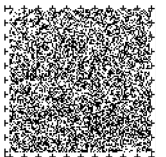
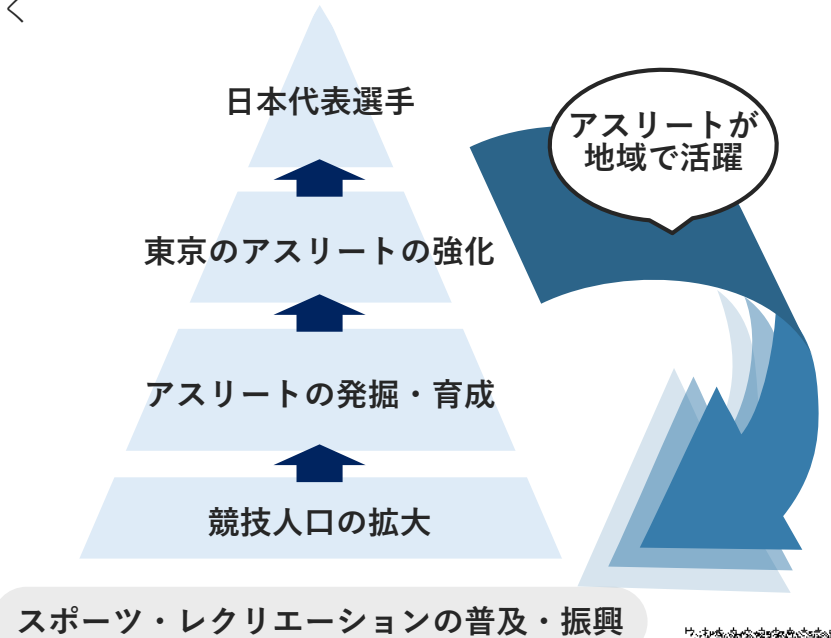


東京のアスリート

今後の取組

東京のアスリートを強化し、競技力向上の成果を、アスリートの地域での活躍に活かす
→ スポーツの裾野拡大やスポーツ実施率の向上につなげていく

- **【競技人口の拡大】**
 - ・ 様々な競技の体験会やスポーツ教室を都内の至る所で開催し、競技スポーツを普及
- **【アスリートの発掘・育成】**
 - ・ 東京育ちの新たなトップ選手を輩出するため、次世代のアスリートを発掘し、育成
- **【東京のアスリートの強化】**
 - ・ 一人でも多くの東京のアスリートが全国大会や国際大会などで活躍できるよう支援
 - ・ パラアスリートを支えるスタッフの活動を支援
- **【アスリートが、その経験をもとに地域で活躍】**
 - ・ 東京育ちのアスリートが地域に応援され、活躍することで、スポーツを推進
 - ・ 女性アスリートの活躍や、スポーツ・インテグリティの推進を支援



東京のアスリートが大会や地域でも活躍、都民の日常にスポーツが溶け込んでいく



6 ボランティア文化の 定着

暑い日差しの下でも雨の中でも、
ボランティアの真摯な姿勢と
温かい笑顔が大会を支えた。

ボランティア気運の高まり

応募者約24万人
1年延期後も約8.3万人が参加
ロンドン・リオ大会を上回る

国内外から寄せられた感謝や称賛の声

あらゆる日本人ボランティアが本当に素晴らしかった。
瞳の中に微笑みがあり、大きなものを与えてもらった。

- Kimberly Daniels (カナダ) カナダ

出典：Athletes from around the world offer praise and thanks to Tokyo and Japan
<https://olympics.com/ioc/news/athletes-from-around-the-world-offer-praise-and-thanks-to-tokyo-and-japan>

子どもたちをあたたかく出迎えてくださり本当にありがとうございました。
子どもたちの感想に「道でたくさん手をふってかれて、うれしかった」等の
言葉が驚くほどたくさんありました。 - 学校連携観戦の引率教員



大会を契機に大きく高まったボランティア活動への気運。
経験や人材の厚い蓄積を将来に受け継ぎ、ボランティア文化の定着と共助社会の実現につなげていく。

これまでを振り返って

- **大会での多様なボランティアの活躍**
年齢、性別、障害の有無に関わらず誰もが安全・安心に活躍できる環境を提供
研修等を通じ多様性への理解を深める
交流機会の提供等を通じ参加気運を維持
→ 約8.3万人のボランティアが大会をサポート
- **大会後の参加意向**
シティキャストの96%、フィールドキャストの83%
→ 大多数が活動継続の意向あり

ボランティア参加者の声

- ・ 大会に関わることができ良かった。また活動へ参加したい。
- ・ ボランティア参加を通じ大会の理念やダイバーシティへの理解が進んだ。



東京ボランティア レガシーネットワーク

ボランティア文化定着のため、様々な活動の魅力を発信、体験を共有、交流の場を提供
<https://www.tokyo-vln.jp/>

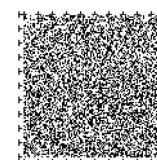
今後の取組

- **【ボランティア気運をつなげる】多彩な情報・活動フィールドの提供**
 - ・ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」により活動情報や交流の場を継続的に提供
 - ・ 「TOKYO障スポ&サポート」によりパラスポーツと支える人材の間をつなぐ
- **【スポーツを支える活動の充実】スポーツ分野の活動機会の確保**
 - ・ 大会のレガシーイベント（周年行事や東京レガシーハーフマラソン）や都実施スポーツイベント等での活動機会確保
- **【ボランティアマインドの更なる醸成】各学校でのボランティア活動の実施**
 - ・ シティキャストユニフォームを活用し、学校が設定したボランティア活動を実施
 - ・ 学校が取り組んできた多彩な取組を継承
- **【大会の経験を未来へ】大会で得られた経験・ノウハウの発信**
 - ・ 大会で活躍したボランティア本人が経験ノウハウを発信する機会を確保（講演・ウェブ等）
 - ・ 地域の団体等の参考となるよう運営から得られた経験や運営システムのノウハウを発信



TOKYO障スポ&サポート

障害者スポーツを後押しするため、障害者スポーツ事業に係るボランティア活動や講習等を配信
<https://www.tokyo-ss.net/>



ボランティア参加の拡大を通じ、ボランティア文化の定着を図る



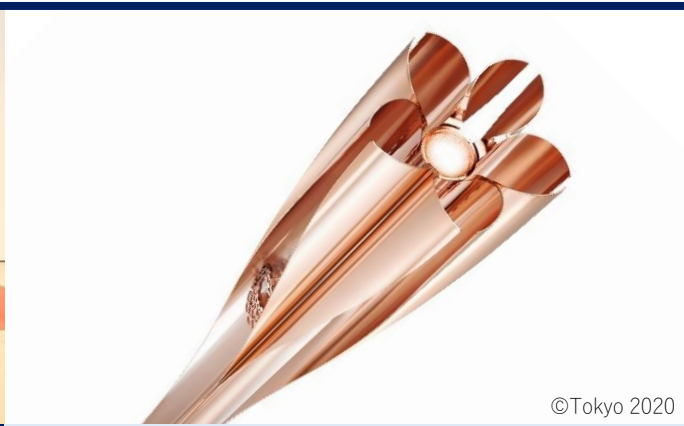
都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト
回収した小型家電でメダル約5,000個を製造

被災県産の花を使用したビクトリーブーケ

世界初の水素聖火台

7 未来へのメッセージ

大会を彩った様々な品々。
未来に引き継ぐ
重要なメッセージが込められた。



©Tokyo 2020 / Shugo TAKEMI

©Tokyo 2020

©Tokyo 2020 / Shugo TAKEMI

27 全国の店舗や学校で廃プラスチックを回収
表彰台に生まれ変わった

復興仮設住宅のアルミ廃材を使用
大会史上初、水素を燃料に使用した聖火リレー torch

多摩産材で作られたムラール
平和や共生社会実現への願いを込めて選手が署名

大会は、スポーツの素晴らしさ、被災地復興、持続可能性、多様性の尊重など重要なメッセージを発信した。これらの努力を記憶と記録に残し未来に継承していく。

これまでを振り返って

- **大会を象徴するメッセージを発信**
「都市鉱山」から制作したメダル、廃プラスチックから制作した表彰台、復興モニュメントや被災地で育てられた花を使用したビクトリーブーケ等、一つ一つにメッセージを込めて発信
- **かけがえのない文化遺産・アーカイブ資産保管の枠組み**
大会の記念品や記録を確実に保存・活用するため、アーカイブ協定を締結

インフォグラフィックス

大会のレガシーを紹介するインフォグラフィックスを作成、SNS等で効果的に発信



今後の取組

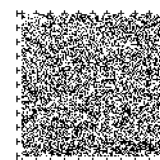
- **【感動と興奮をスポーツ振興に】身近な場所で大会の記憶に触れる場を創出**
 - ・ 大会開催の象徴的な場所にオリンピック・パラリンピックの名称を付与
 - ・ 大会で制作した設置物や銘板等をスポーツや大会に関係の深い場所に設置
 - ・ 地域や学校、スポーツイベント等でアスリートが使用した競技備品等に触れる場を提供
- **【精神を継承する】大会のアーカイブ資産とメッセージを後世に伝達**
 - ・ 大会の記念品を展示や教育の場で活用。ムラール、選手村で使用した段ボールベッド等
 - ・ ビクトリーブーケや聖火リレートーチ等の活用など被災地との絆・交流を承継
 - ・ 大会の記録・文書を適切に保管し、大会開催の努力や取組を将来に伝達
- **【大会のメモリアル】「東京レガシーハーフマラソン」の創設（毎年10月第3日曜）**
 - ・ アスリートも市民ランナーも障害の有無に関わらず誰もが楽しんで走る場を創出
 - ・ 2022年の第1回は、IOCと協力し、「セレブレーションマラソン」に位置付けて実施
- **【開催都市の経験を共有】大会で得た知識や知見を他都市と分かち合う**
 - ・ 将来の開催都市をはじめ他都市と大会での先駆的取組や学びを共有
 - ・ 各会議やフォーラムでのプレゼンテーションや意見交換を実施



東京レガシーハーフマラソン
(東京マラソン財団主催) コースマップ
東京2020大会パラリンピック
マラソンコースを活用（予定）

大会1周年記念行事 (2022年7～10月)

大会後1年を契機として、大会の感動を再び思い起こし、その感動をスポーツの実施に結び付けるため、様々なスポーツイベントやセレブレーションマラソンを実施



大会が残した資産とともに込められたメッセージを未来に受け継ぐ

ARIGATO



「TOKYO 2020 #ARIGATO」動画



TOKYOスポーツレジャービジョン

2022（令和4）年1月
東京都オリンピック・パラリンピック準備局